

下ノ前だより(お庚申)

No1 2024年3月6日発行
発行者 下ノ前地蔵祭り保存会

●お庚申祭りの実施

2024/2/25

(実際の庚申日は2月26日)



下ノ前お庚申祭りの会員は下ノ前で昔から農業に営む25名(令和5年現在)が居ます。例年は年最初の庚申の日に当番が庚申塔の整備して、紙垂を付けてお参りをしてきます。その後にコミセンでお庚申様掛け軸を飾り、会員が順次お参りして飲食をしていました。

コロナ禍より飲食はしなくなり、お参りのみでここ5年は開催しています。このような様式でいつまで開催できるか不安があります。以前のように飲食して、情報交換を持続したいものです。「ある地域の例で一晩中飲み明かすとかあります」が、そこまででなく、簡素な飲食して地域の活性化につながれば良いと思います。



◆現地 庚申塔



左側

正面

右側



青面(しょうめん)金剛は日本の民間信仰である庚申信仰の中で独自に発展した尊像で三尸(さんし)を押さえる神とされています。三尸とは人間の体内に棲むといわれる種類の悪い虫のことで、人の睡眠中にその人の悪事をすべて天に報告にいくと言われていました。そのため、三尸が活動するとされて居る庚申の日(60日に一度)の夜は人々が集まって徹夜で過ごすという【庚申侍】の風習がありました。

また、「見ざる、言わざる、聞かざる」の三猿も庚申信仰の神様として祀られているのをよく見かける。

身を慎むことから始まりましたが、皆で飲食・歓談して過ごす楽しい集まりになっていきました。また、さまざまな情報を交換し、農作業の知識や技術を研究する場でもありました。

